

## 愛媛県がん相談支援推進協議会の開催結果について

- 1 会議名 平成 29 年度愛媛県がん相談支援推進協議会
- 2 開催日時 平成 29 年 9 月 5 日 (火) 18:30~20:00
- 3 開催場所 県庁第 1 別館 11 階会議室
- 4 出席委員 井上哲志、小林一泰、谷水正人、早瀬昌美、松本陽子、  
(欠席：灘野成人、橋本妙子、)
- 5 次第
  - (1) 開会
  - (2) 竹内健康増進課長あいさつ
  - (3) 谷水会長あいさつ
  - (4) 議題
    - ・平成 28 年度事業の実施状況について
    - ・平成 29 年度の事業計画等について
    - ・がん対策推進基本計画案 (案) について
    - ・愛媛県がん対策推進計画について

## ＜会議概要＞

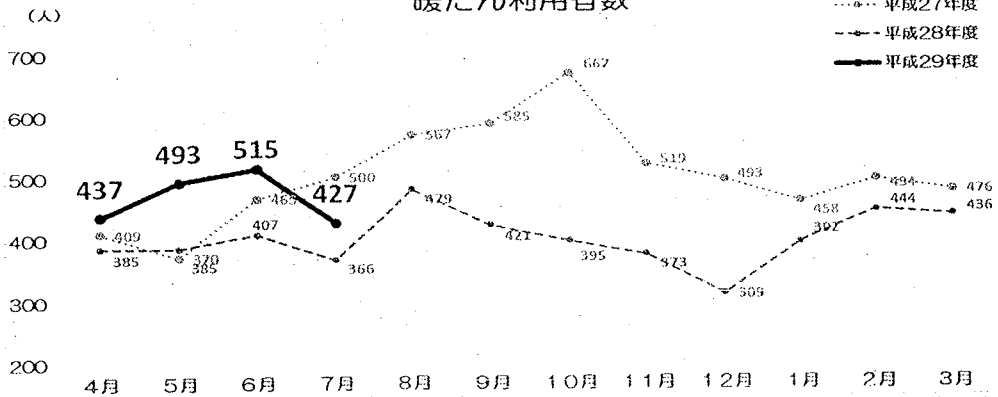
- 議題 1：平成 28 年度事業の実施状況について
  - ・石川県金沢市におけるがんサロン実施状況について
  - ・町なかサロンにおける取り組みについて
  - ・四国がんセンター患者・家族総合支援センターの取り組みについて
- 議題 2：平成 29 年度の事業計画等について
  - ・がんの子どもを守る会愛媛支部主催による野外定例親睦会について
  - ・日本小児血液・がん学会学術集会 (11 月 9 日~11 日) の関連イベントについて
- 議題 3：がん対策推進基本計画案 (案) について
  - ・国の計画策定の見通しについて
  - ・県計画策定の進め方について
- 議題 4：愛媛県がん対策推進計画について
  - ・小児・AYA 世代のがん対策への積極的取り組みについて
  - ・小児がん患者への教育支援について
  - ・希少がん・難治性がんへの対策について
  - ・高齢者へのがん対策について
  - ・非がん患者のための緩和ケアについて
  - ・がん関係情報提供ネットワークの整理について
  - ・医療安全支援センターとがん相談支援センターとの連携について
  - ・相談支援における院内ボランティアの活用について



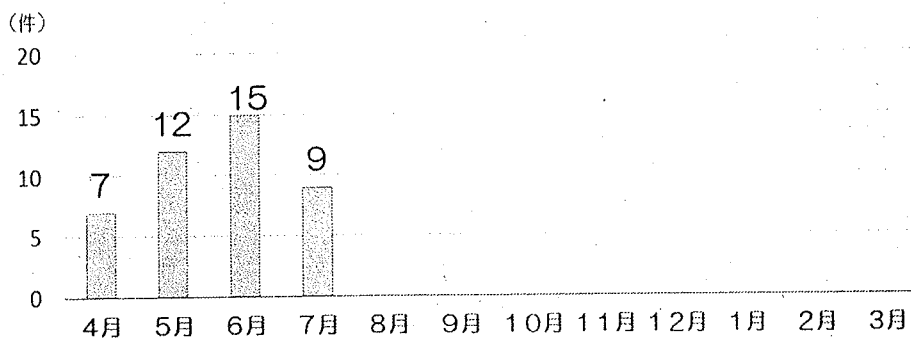
利用者数

	H27	H28	H29
4月	409	385	437
5月	370	385	493
6月	465	407	515
7月	500	366	<b>427</b>
8月	567	479	
9月	585	421	
10月	667	395	
11月	519	373	
12月	493	309	
1月	458	392	
2月	494	444	
3月	476	436	
総数	4511	4792	1872
月平均	376	399	468

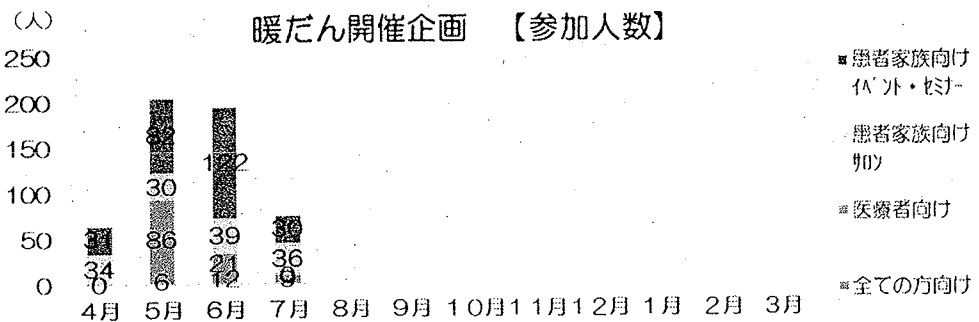
暖だん利用者数



暖だん開催企画 【開催件数】



暖だん開催企画 【参加人数】



9月のアドバイザー訪問日

場所：患者・家族総合支援センター  
時間：13時～15時

☆ウィッグメーカー☆

- 8月 7日 (木) 東京義髪整形
- 13日 (水) アデランス
- 14日 (木) スヴェンソン
- 20日 (水) アートネイチャー
- 21日 (木) an
- 27日 (水) とらや

☆マンマ製品メーカー☆

(今月の訪問はありません)

毎週水曜は、就職・就労相談の日！

場所：患者・家族総合支援センター

- ☆毎週水曜日 10時～15時  
ハローワーク松山による就職相談  
就職・転職をお考えの患者さんに、ハローワーク松山就職支援ナビゲーターが無料で相談をお受けします。
- ☆毎月第3水曜日 10時～13時  
社会保険労務士による就労相談  
仕事と治療の両立について、社会保険労務士が無料で相談をお受けします。

対象の方にご案内下さい

2017年度 改訂版(8月より)

がん哲学外来



がん哲学外来は「病気であっても病人ではない」  
がん体験者だからこそできることがある。  
その人らしい生き方の探求を目指し、「カフェスタイル」  
で全国に広がっています。  
一般的な外来診療とは異なります。

# 坂の上の雲 暖だんカフェ

患者さん、ご家族、友人、医療介護福祉関係者、サポートスタッフが集まり、お茶を飲みながら、気軽に対話できるサロン形式のカフェです。それぞれの立場を超えて、同じテーブルを囲み、ともに寄り添い語らいます。また、院長による個別面談の機会もあります。

**対象：どなたでもご参加いただけます**

**場所：患者・家族総合支援センター 暖だん  
憩いのひろば**

**時間：13時30分～15時**

2017年	8月10日(木)	9月14日(木)
	10月11日(水)	11月25日(土)
	12月14日(木)	
2018年	1月10日(水)	2月14日(水)
	3月8日(木)	

申込不要  
参加費無料  
個別面談も実施(予約不要)

# 就労に関するセミナー・研修会の開催

	医療関係者・職場関係者・就労関係者向け企画	患者向け企画
H24年度	①がんと就労～治療スタッフと職場の連携の必要性～ ②就労相談支援スキルアップセミナー ～治療と職業生活の両立に向けて～	
H25年度	①働くがん患者を支えるために ～病院・職場関係者にできること～ ②がんと就労の両立 ～医療機関と職場の連携に向けて～	①患者のわたしにできること ②就労Ring ～乳がん治療をしながら働くことについて、 一緒に考えてみませんか？～
H26年度	①就労相談支援スキルアップセミナー ～治療と職業生活の両立に向けて～ ②(社会保険労務士、ソーシャルワーカーのための) がん経験者就労支援セミナー ～治療と職業生活の両立に向けて～ ③がんと就労～がん患者の『働きたい』を支えるために～	①MSWに聞こう！ がんとお金のこと ②憩いのサロン ナイトサロン ～働く患者さんと家族のためのサロン～
H27年度	①がん患者さんの「働きたい！」をサポートするためにできること ～愛媛県における就職支援モデル事業の取り組みについて～	①がんとお金・仕事 知って得するみんなの制度 ②憩いのサロン ナイトサロン
H28年度	がん患者さんの『働きたい』を支えるために ①社会保険労務士と病院ができること ②地元企業と拠点病院ができること ③それぞれの立場で考えるがん患者への支援	①がんとお金・仕事 知って得するみんなの制度 ②憩いのサロン ナイトサロン

1

## 平成28年度 四国がんセンター就労支援セミナー開催の概要

“がん患者さんの「働きたい！」を支えるために”をテーマに医療・地域・企業の関係者を対象として実施

### ①社会保険労務士対象

(参加者：91名)

- 愛媛県社会保険労務士会でのセミナー開催
- がんの動向や知識提供
- 映像教材上映「がん治療と仕事の両立～もしも、職場の誰かががんになったら～（東京都保健福祉局）」

3回シリーズのセミナー（導入・実践・振り返り）

### ②企業（明屋書店の 中間管理職）対象

(参加者：延べ 107名)

- がんの基礎知識・就労支援の必要性理解
- 具体的な支援のイメージ化（グループワーク）
- 面談ロールプレイ
- 職場での取り組み実践、成果発表会



### ③患者・社労士・企業 関係者・医療関係者・ 行政対象

(参加者：55名)

- 国の取り組みと地域の取り組みに関する情報提供
- それぞれの立場でできる支援の共有

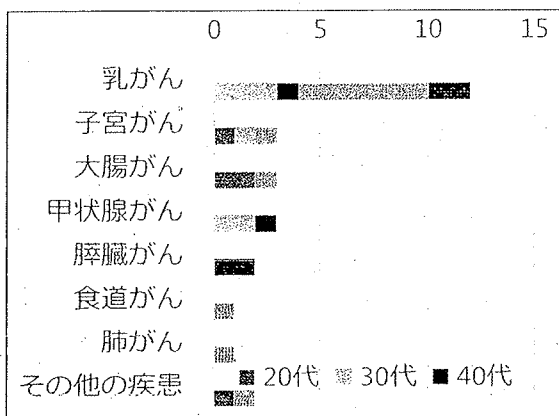




# 就職支援事業の実績

四国がんセンター内での出張相談（平25年7月～平成29年3月）

- 相談者数：110名
- 就職者数：36名
- 両立支援に関する相談が増加傾向
- 就職者のがん種別年代別人数



新規の就職率は高くはない

就労継続支援が必要

辞めさせない  
努力

患者さんからは・・・

- ・治療の副作用で体力が低下しているがどんな仕事ができるだろうか
- ・治療しながらどんな働き方ができるだろうか
- ・病名は伝えた方がいいだろうか
- ・定期的に通院が必要なので、会社に理解してもらえるか不安

## 厚生労働省事業

### 2) 産業保健総合支援センターにおける両立支援事業

#### 【両立支援相談窓口等での相談対応(出張相談)】

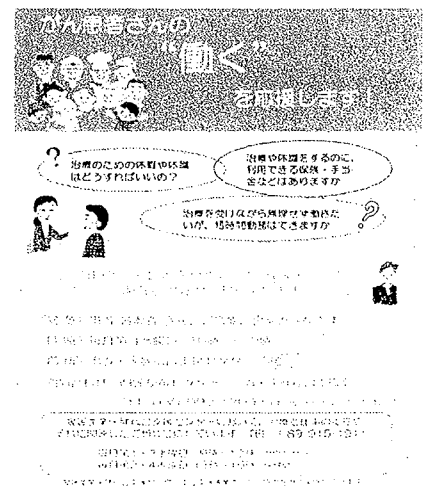
医療機関等に設置される相談窓口で、がんなどの患者（労働者）、事業者（企業）、人事労務担当者、産業医、保健師等産業保健スタッフからの両立支援に関する相談に対応する。

※厚生労働省から平成28年2月23日に公表された『事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン』の示すところにより、産業保健総合支援センターに両立支援促進員を配置。

#### 【四国がんセンターでの出張相談】

- 平成28年9月から開始
- 愛媛産業保健総合支援センターの両立支援促進員（社労士）が出張相談を実施
- 毎月第3水曜日10：00～13：00
- 相談時間：30分から1時間
- 原則予約制

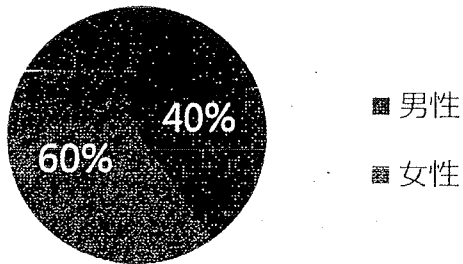
治療と仕事の両立を目指した 就労相談



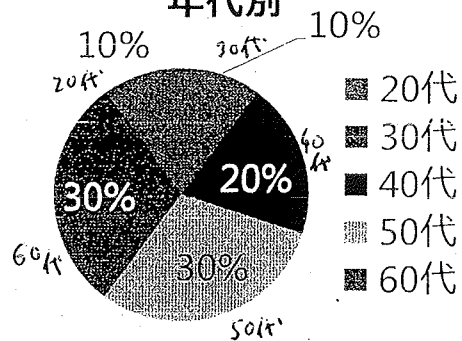
# 就労支援事業の実績

四国がんセンター内での出張相談（平28年9月～平成29年3月） 相談者数11名

男女別



年代別



- がん種別：乳がん(2)子宮がん、大腸がん、食道がん、すい臓がん、  
耳下腺がん、甲状腺がん、舌下腺がん、悪性リンパ腫
- 相談内容：治療を受けながら働きたい（5）  
治療のための休み方を知りたい（1）  
治療中・休職中の保障について聞きたい（傷病手当金）（2）  
その他（障害年金について、職場への報告方法）



# 愛媛県がん診療連携協議会

[お問い合わせ](#) [サイトマップ](#)

[愛媛県がん診療連携協議会会長あいさつ](#)

[愛媛県がん診療連携協議会について](#)



[協議会・専門部会の参加について](#)

[トップページ](#) [専門部会について](#) [がん相談支援専門部会](#) [活動実績](#) [議事録](#)

[専門部会について](#)

がん相談支援専門部会：活動実績  
議事録

## 平成29年度

- [第1回がん相談員研修会活動実施報告書2017.07.08 \(PDF:282KB\)](#)
- [第1回がん相談員研修会アンケート調査2017.07.08 \(PDF:594KB\)](#)
- [第1回がん相談員研修ワーキング議事録2017.4.27 \(PDF:324KB\)](#)

## 平成28年度

- [第5回愛媛県がんサロン担当者の交流・検討会開催報告書2017.2.10 \(PDF:193KB\)](#)
- [第2回がん相談支援専門部会活動実施報告書2017.1.14 \(PDF:255KB\)](#)
- [第2回がん相談員研修会アンケート調査2017.1.14 \(PDF:493KB\)](#)
- [第2回がん相談支援専門部会2016.12.3\(PDF:89KB\)](#)
- [第2回がん相談員研修ワーキング議事録2016.11.1\(PDF:299KB\)](#)
- [第1回がん相談支援専門部会2016.7.23 \(PDF:115KB\)](#)
- [第1回がん相談支援専門部会活動実施報告書2016.5.21\(PDF:451KB\)](#)
- [第1回がん相談員研修会活動及びアンケート調査報告書2016.7.9\(PDF:724KB\)](#)
- [第1回がん相談員研修ワーキング議事録2016.5.24 \(PDF:299KB\)](#)

## 平成27年度

- [第2回がん相談員研修会活動及びアンケート調査報告書2016.2.26\(PDF:641KB\)](#)
- [第2回がん相談支援専門部会2015.12.5 \(PDF:191KB\)](#)
- [第2回愛媛県がん相談員研修ワーキング2015.11.12 \(PDF:271KB\)](#)
- [第1回がん相談支援専門部会2015.7.25 \(PDF:280KB\)](#)
- [第1回愛媛県がん相談員研修会活動報告2015.7.7 \(PDF:255KB\)](#)
- [第1回愛媛県がん相談員研修ワーキング2015.6.26 \(PDF:176KB\)](#)

## 平成26年度

- [第1回愛媛県がん相談員研修ワーキング2015.2.26 \(PDF:266KB\)](#)
- [サロン交流会・検討会2015.2.10 \(PDF:142KB\)](#)
- [第2回愛媛県がん相談員研修会報告2015.1.16 \(PDF:295KB\)](#)
- [第2回がん相談支援専門部会2014.12.6 \(PDF:438KB\)](#)
- [第2回愛媛県がん相談員研修ワーキング2014.11.11 \(PDF:195KB\)](#)
- [第1回がん相談支援専門部会2014.8.2 \(PDF:165KB\)](#)
- [第1回愛媛県がん相談員研修会活動報告2014.7.8 \(PDF:274KB\)](#)
- [第1回愛媛県がん相談員研修ワーキング2014.4.22 \(PDF:192KB\)](#)

## 平成25年度

- [第3回愛媛県がん相談員研修ワーキング2014.3.11 \(PDF:124KB\)](#)

## 専門部会について

[がん地域連携専門部会](#)

[活動方針・目的](#)

[年度計画](#)

[活動実績](#)

[セミナー・研修会](#)

[緩和ケア専門部会](#)

[活動方針・目的](#)

[年度計画](#)

[活動実績](#)

[愛媛県緩和ケア研修会PEACE](#)

[がん相談支援専門部会](#)

[活動方針・目的](#)

[年度計画](#)

[活動実績](#)

[議事録](#)

[抄録・学会報告・冊子等](#)

[セミナー・研修会](#)

[がん登録専門部会](#)

[活動方針・目的](#)

[年度計画](#)

[活動実績](#)

[セミナー・研修会](#)

[がんの診断支援部会](#)

[活動方針・目的](#)

[年度計画](#)

[活動実績](#)

[セミナー・研修会](#)

[がん登録専門部会](#)

[活動方針・目的](#)

[年度計画](#)

[活動実績](#)

[セミナー・研修会](#)



愛媛県がん診療連携協議会  
参加施設のご紹介

[第2回がん相談員研修会活動報告2014.1.21 \(PDF: 202KB\)](#)









[第2回愛媛県がん診療連携協議会分科会2013.12.7 \(PDF: 247KB\)](#)

[第2回がん相談員研修ワーキング打ち合わせ2013.11.15 \(PDF: 111KB\)](#)

[第1回愛媛県がん診療連携協議会分科会2013.7.27 \(PDF: 260KB\)](#)

[第1回愛媛県がん相談員研修会活動報告2013.7.19 \(PDF: 222KB\)](#)

[第1回愛媛県がん相談員研修会2013.6.18 \(PDF: 147KB\)](#)

-  [愛媛県](#) 
-  [愛媛県がん診療連携協議会がお勧めする  
役立つサイト情報](#) 
-  [患者・家族総合支援センター](#) 
-  [がん登録でみる愛媛県のがん診療](#) 

[プライバシーポリシー](#) | [免責事項](#) | [アクセシビリティポリシー](#)

[このページの先頭へ](#)

愛媛県がん診療連携協議会

Copyright © Ehime cancer medical examination and treatment cooperation conference. All Rights Reserved.

「がん相談支援専門部会」議事録

日時	平成 29年 7月 22日 (土) 13:00～14:10			
場所	四国がんセンター 地域医療連携研修センター3階休憩室			
出席者 (37名)	愛媛がんサポート おれんじの会	松本	愛媛大学医学部附属 病院	塩見 (副部長)、亀岡、 合田、池田、岡田
	愛媛県立中央病院	外山、季羽、平野、 渋谷	松山赤十字病院	三好、河野、山村、中野
	済生会今治病院	久保田、河上、永井	市立宇和島病院	毛利、沼田、黒田
	住友別子病院	和田、住友	十全総合病院	溝渕
	愛媛労災病院	田中	四国中央病院	松永
	済生会西条病院	森	市立八幡浜総合病院	高橋
	済生会松山病院	平岡、中村	四国がんセンター	灘野 (部長)、中本、大西、 関木、篠原、福島
記録者	四国中央病院	松永		

議 事 要 旨

1. 開会挨拶

2. 部会長挨拶

3. 第9回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供・相談支援部会の報告

第3期がん対策推進基本計画案について

- ・相談内容の多様化により、適切な人材配置やさらなる研修の必要性が指摘されている。
- ・就労支援に対して、治療と仕事の両立支援やハローワークの就労支援ナビゲーターとの連携が求められている。
- ・就労以外の社会的問題として、へき地、経済、外見、生殖機能、自殺などが挙げられており、それらが盛り込まれてくる可能性もある。

がん相談支援センターの災害対策について

- ・首都圏が被災してもメーリングリストは使用できるため、インターネットでの情報収集も可能。拠点病院間の連携が必要。熊本地震の際は中央と九州がんセンターが支援した経緯あり、四国被災時は中央と四国がんセンターが支援することになるだろう。東京被災時は九州がんセンターと北海道がんセンターがサポート予定。
- ・平成30年度 地域フォーラムに香川県が申込予定であるため採択されれば協力要請がある予定。
- ・アスベストの救済制度の連絡先周知

4. 各ワーキンググループの活動報告

1) がん相談員研修ワーキング

① 平成29年度第1回がん相談員研修会の報告

基礎編として、平成29年7月8日に開催。参加者21人。相談支援の各要素の理解を中心に、グループワーク形式で研修。プレテスト・ポストテストを実施。参加者へのアンケート

やテストの結果は添付資料を参照。

② 平成 29 年度第 2 回がん相談員研修会の案内

平成 30 年 1 月 27 日（土） 県立中央病院にて開催予定。応用編として、主に、がん相談支援センター相談員基礎研修（1）（2）を受講している人や、平成 29 年度第 1 回の研修を受けた人を対象とする。受講者不在の病院については相談可。

③ リマインドアンケートの協力依頼

研修会を、平成 25 年度から計 9 回開催してきた。研修を受けてその後どうだったか等のアンケートを今年度中(秋頃)にしたい。研修参加者を対象にメールにてアンケートを送信予定。

2) サロン担当者交流・検討ワーキング

① 第 5 回サロン担当者の交流・検討会の報告

平成 29 年 2 月 10 日に開催した。サロン担当者 15 名、ピアサポーター 7 名参加。開催報告は、当専門部会ホームページを参照。

② 第 6 回サロン担当者の交流・検討会開催について

平成 30 年 2 月 8 日（木）開催予定で調整中。課題や開催方法等、担当者へアンケート予定。

③ 愛媛県ピアサポーター養成研修について

平成 29 年 9 月 16・17 日に開催予定。

④ サロン開催広報について

今年度 10 月～3 月の愛媛県内がんサロン開催一覧を作成。10 月に暖だんのホームページへアップ予定。追加修正があれば各自リーダーへ連絡する。各病院のサロンのチラシを持参していただき、各病院へ配布。

⑤ その他

まちなかサロンにて、若年の患者（おおむね 40 歳位まで）のサロンを月 1 回開催している。各病院での相談対応にて、該当者には年間の予定表を直接情報提供の協力を頂きたい。

3) チェックリストワーキング

① 平成 28 年度チェックリスト実施報告と課題の検討

平成 28 年度に実施したチェックリストの結果はメールにて配信済。

実施率が低かったものの中で、専門部会として取り組む課題として、患者会リストの作成、満足度調査の実施、がんに関する情報の共有、出張相談や広報活動、相談員研修、サロンの運営が挙げられた。

患者会リスト：特定の民間療法をすすめる患者会もあるため一定のチェックがあった上でのリスト作成が必要。安心・安全な情報提供を行う事が必須。全国がん患者団体連合会加盟団体（加盟条件に一定のルール規制を設けてあり安全性が担保されている）も参考する。（要検討）

満足度調査：各病院内で実施する満足度調査の一項目として入れてもらう。がん相談支援センターに特化した調査は、以前に全国の協議会で作成したものがあるので、それを使用する。県のがん対策推進委員会にて、がん医療に対する満足度調査を検討中のため、一部相談支援の項目を入れてもらう。（要検討）

情報共有：国立がん研究センター等から発信される情報を推進病院でも得られるように、拠点病院に届いたものを推進病院にも四国がんセンターから転送していくこととなった。(決定)

② 平成 29 年度のチェックリストの実施について

チェックリストの見直しを行い、項目を削除・追加した。新しいチェックリストにて平成 29 年 12 月末までに各病院にてチェックを行い、年明けに集計。今年度中に結果報告予定。

4) 広報活動ワーキング

① 平成 29 年度活動予定

- ・ラジオや県や市の広報誌にて相談支援センターの広報をすすめる。
- ・出張相談の機会を作ることで、相談支援センターの広報ができるようにする。
- ・就労相談をいつ、どこで開催されているかを一覧にし、サロンと就労相談を両面にすると広報ツールにできる。情報収集の協力依頼。
- ・9月2・3日にリレーフォーライフ開催。今年度は時期が早く暑さが予想されるため、短時間のプログラムに変更されている。出張相談は困難な為、チラシでの広報活動のみ行う。

② 出張相談の協力依頼

平成 29 年 9 月 16 日消化器病学会四国支部（松山コミュニティーセンター）にて市民公開講座がある。その場で出張相談の予定。

平成 29 年 11 月下旬の週末 愛媛すごいもの博 県と松山市主催のもので、現在交渉中。ブースを出すことができれば、参加を依頼する。

③ その他

四国がんセンターにて、がん相談支援センターの法被（4 着）とのぼり旗（4 枚）を購入。今後、出張相談や PR 事業の際には使用予定。各病院で使用希望があれば、無料で貸し出し可能。（郵送とクリーニング費用は使用施設の負担となる）

5. がんサポートサイトえひめについて （別紙参照）

以上

# 第5回愛媛県がんサロン担当者の交流・検討会開催報告書

記載者：松山赤十字病院 小野恵里香

## 1. 日時

平成29年2月10日（金） 13:30～16:00

## 2. 場所

四国がんセンター 患者・家族総合支援センター ミーティングルーム1

## 3. 参加人数

医療関係者（県内がん拠点・推進病院のサロン担当者）：15名

愛媛県ピアサポーター（オブザーバー）：7名

## 4. 内容（別紙「第5回愛媛県がんサロン担当者の交流・検討会議事次第」参照）

### 1) 各サロンの現状報告

- ・四国がんセンター：がん哲学外来カフェの取り組み開始。次年度は就労支援のテーマもサロンで扱う。
- ・県立中央病院：名称変更（みきゃんサロン）、冊子を設置、医療者見学促進。リピーター増加。
- ・松山赤十字病院：院内周知（院内報やFacebook掲載）。医療者座談会やピアサポーター企画が好評。
- ・愛大病院：院内周知促進（院内メールやリンクナース活用）。開催場所変更（相談支援センター内）
- ・住友別子病院：参加者15名前後、95%がリピーター。ピアサポーターと今後のサロンを話し合った。
- ・済生会今治病院：常設サロン（平日、図書やインターネット設置）、月1回サロン。参加年齢層も多様。
- ・四国中央病院：大半がリピーター。要望や病院の意見に合わせて、参加対象や内容を話し合っていく。
- ・HITO病院：年6回開催、医療者の参加数が多い。ピアサポーター参加が好評、家族会の要望があった。
- ・済生会松山病院：治療期の患者家族が主な対象。講師への事前情報提供が満足度の高さにつながった。

### ・金沢のサロン見学報告（おれんじの会松本氏）：

- ①小松市民病院（院内常設サロン）「kataro-sa」は常駐スタッフの周知活動が効果的（職員会議、医療者向け研修会）、ホームページの「院長挨拶」にも患者サロンについて明言されている。
- ②石川県がん安心生活サポートハウス（院外常設サロン）「つどい場はなうめ」は毎月多様なイベントが11回程度開催。常駐スタッフのケアには、スーパーバイザーがあたっている。

### 2) 意見交換での共有事項

- ・A: 東予にもピアサポーターの取り組みを進めていきたいが移動時間や予算の点が懸念、調整が課題。サロンの参加促進については「参加してみると良さを実感できる」点がメリットであり課題。広報周知の際に、もっと参加後の感想や生の声が伝わるよう工夫していきたい。
- ・B: 広報周知の際に、外来化学療法室や診察室で予約票を渡す際にサロン運営スタッフが案内を渡す取り組みが効果的。がん患者の割合によっては、入院のしおりにも案内を追加できるのでは。病院開催日以外は町なかサロンを活用できるよう周知促進。
- ・C: 企画段階からピアサポーターと話し合いながら協働している。病院長に理解があり意欲的だと広報周知が進みやすい。広報周知は、当日以前からの院内放送や市報の活用に加え、広報周知対象者の事前ピックアップも他職員と協力して取り組んでいきたい。

### 3) その他（あれば）

- ・次年度ピアサポーター養成研修会の開催予定について確認→今夏か秋の時期に開催予定。
- ・入院中は全身状態がしんどいこともあるため、化学療法や放射線治療中の患者・家族に焦点を当てるのも1つでは。関連部署職員も広報周知の協力者に巻き込んでいけると良い。
- ・こういった、担当者とピアサポーターの交流検討会は全国でも少数。今後も継続していく。

## 平成 28 年度愛媛県がん相談・情報提供支援事業実施状況

(NPO 法人愛媛がんサポートおれんじの会へ委託)

### 【事業実績】

#### 1 患者会と拠点病院等との連携推進

- (1) がん診療連携拠点病院にて実施されるがん患者サロンの運営に、がん相談に対応できる専門的な知識・ノウハウを持ったピア・サポーターが参画し、がん患者等に対する相談支援業務を行った。

##### 【拠点病院との連携】

四国がんセンター、愛媛大学医学部附属病院、松山赤十字病院、県立中央病院、市立宇和島病院 各月 1 回

済生会松山病院 隔月 1 回

- (2) がん診療連携拠点病院等のサロン担当者との意見交換会 出席  
ピア・サポーター 7 人が出席

#### 2 ピア・サポーターの人材育成

がん患者サロンの運営協力を行うことを目的として、実践的な相談支援の技能を修得することを目指し、事例検討やロールプレイを実施。

【実施回数】 7 回（初心者養成 1 回、実務者フォローアップ 6 回）

初心者養成は 12 人が受講し、全員修了

#### 3 就労支援相談事業

がん患者とその家族、経験者を対象に、治療と仕事の両立に関する悩みを聞き、就労支援経験豊富なキャリアコンサルタント（おれんじの会会員）が専門的な助言などを行った。

東予 済生会今治病院 1 回（医療者向け講演）

中予 松山赤十字病院 12 回

南予 市立宇和島病院 12 回

# 平成 28 年度事業実績

(在宅医療普及推進事業)

事業者名 (NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会)

事業の目的	<p>がん患者や家族等が、住み慣れた家庭や地域で安心して療養できるために、同じ立場の人同士で気軽に交流したり、相談したりする環境を整備することを目的とする。</p> <p>拠点病院が集中する松山市の利便性の良い場所に拠点を置き、急性期の治療から在宅へ移行する患者や家族を支援するために、在宅医療に関する勉強会や相談を定期的を開催する。</p> <p>また、拠点病院空白地域である南予（大洲、八幡浜）地域でのサロン運営などに取り組む。</p>
事業内容等	<p>1 松山市内拠点</p> <p>【情報提供】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・開館時間 月曜～金曜、週末は隔週 午前10時～午後4時（事務スタッフが常駐）</li><li>・図書閲覧やパソコンによる情報検索支援など。</li></ul> <p>【相談業務】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・がん治療経験を持ち研修を修了したピアサポーターが相談や情報提供に対応（228件、250人）</li><li>・医師、看護師による個別相談（59件、69人）</li><li>・在宅医療に関する勉強会など（45回実施、213人）</li></ul> <p>2 南予（大洲、八幡浜）地域</p> <p>【相談業務】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・がん治療経験を持ち研修を修了したピアサポーターが相談や情報提供に応じた。（大洲喜多医師会病院 奇数月第1金曜 計6回開催）</li></ul>
備考	ホームページ、新聞広告などを使っての周知に取り組んだ



28年4月～29年3月相談者総数

町なかサロン

年	月	サロン利用			件数	医療相談			件数	電話相談			件数	総数		特別サロン	
		本人	家族	その他		本人	家族	その他		本人	家族	その他		総件数	総人数	回数	人数
平成28年	4月	9	5	2	14	7	0	0	7	6	5	0	11	32	34	3	11
	5月	8	1	1	9	2	3	1	4	3	0	1	4	17	20	3	12
	6月	7	5	1	12	6	2	1	5	3	3	1	7	24	29	4	14
	7月	10	4	1	14	8	0	0	8	5	4	0	9	31	32	3	26
	8月	12	7	1	13	5	0	0	5	5	2	1	8	26	33	4	9
	9月	4	3	0	5	5	2	0	7	4	5	2	11	23	25	3	11
	10月	9	2	0	10	4	1	0	5	3	4	0	7	22	23	3	15
	11月	9	4	3	15	4	1	0	4	6	3	0	9	28	30	4	10
	12月	6	3	1	10	4	1	0	4	0	2	2	4	18	19	4	19
平成29年	1月	10	4	9	22	1	2	0	2	4	1	2	7	31	33	4	33
	2月	2	2	2	5	4	2	0	5	6	1	0	7	17	19	4	29
	3月	5	4	0	7	1	2	0	3	3	5	0	8	18	20	6	24
合計		91	44	21	136	51	16	2	59	48	35	9	92	287	317	45	213

備考 特別サロン…部位別の会

遺族会

研修会等

町なかサロン 特別サロン 平成28年度

	年月日	回数	サロン名	日時	参加人数	月別人数)
1	4月	1	大切な人を見送った方のためのサロン	7日	1名	
2		2	就活相談セミナー	17日	0名	
3		3	町なか句会	23日	10名	11名
4	5月	1	大切な人を見送った方のためのサロン	21日	7名	
5		2	就活相談セミナー	22日	1名	
6		3	乳がん患者さんのためのサロン	24日	4名	12名
7	6月	1	大切な人を見送った方のためのサロン	2日	5名	
8		2	町なか句会	4日	6名	
9		3	メイクセミナー	12日	1名	
10		4	就活相談セミナー	26日	2名	14名
11	7月	1	大切な人を見送った方のためのサロン	16日	14名	
12		2	就活相談セミナー	17日	2名	
13		3	前立腺がんを学ぶサロン	29日	10名	26名
14	8月	1	大切な人を見送った方のためのサロン	4日	2名	
15		2	リンパ浮腫セルフケアを学ぶサロン	21日	2名	
16		3	就活相談セミナー	21日	2名	
17		4	町なか句会	27日	3名	9名
18	9月	1	大切な人を見送った方のためのサロン	17日	2名	
19		2	就活相談セミナー	18日	0名	
20		3	知っておきたいがん患者さんとご家族のための年金制度活用法	25日	9名	11名
21	10月	1	大切な人を見送った方のためのサロン	6日	9名	
22		2	就活相談セミナー	16日	1名	
23		3	家族性腫瘍について考えるサロン	23日	5名	15名
24	11月	1	町なか句会	13日	3名	
25		2	大切な人を見送った方のためのサロン	19日	3名	
26		3	就活相談セミナー	20日	1名	
27		4	乳がん患者さんのためのサロン	26日	3名	10名
28	12月	1	大切な人を見送った方のためのサロン	1日	2名	
29		2	クリスマスツリーを作るサロン	8日	4名	
30		3	みんなでトーク有田雅也さんと一緒に語ろう	10日	13名	
31		4	治療と就労セミナー	18日	0名	19名
32	1月	1	内藤あゆ美さんギャラリートーク	7日	20名	
33		2	大切な人を見送った方のためのサロン	21日	2名	
34		3	就活相談セミナー	22日	1名	
35		4	緩和ケア病棟ベテル病院見学	29日	10名	33名
36	2月	1	大切な人を見送った方のためのサロン	2日	0名	

37		2	知っておきたい 医療費控除	9日	13名	
38		3	緩和ケア病棟四国がんセンター見学	13日	15名	
39		4	就活相談セミナー	19日	1名	29名
40	3月	1	胃がん患者さんとご家族のためのサロン	4日	6名	
41		2	アロママッサージを楽しむ	9日	7名	
42		3	緩和ケア病棟見学された方のためサロン	16日	5名	
43		4	大切な人を見送った方のためサロン	18日	3名	
44		5	治療と就労セミナー	19日	1名	
45		6	町なか句会	26日	2名	24名
		45回				213名

## 平成 28 年度 ピアサポーター養成研修 報告書

開催日：平成 28 年 9 月 3 日（土）9：30～16：30

平成 28 年 9 月 4 日（日）9：30～16：30

会場：松山市男女共同参画推進センター（松山市三番町六丁目 4-20）

参加者：12 人 男性 3 人、女性 9 人（全員 2 日間修了）

### 初日（9月3日）

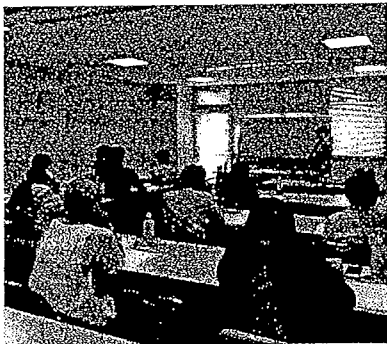
- ・「平成 24 年度厚生労働省委託事業 がん総合相談に携わる者に対する研修プログラム策定事業テキスト」を用いて、ピアサポートの基礎知識について学んだ。
- ・四国がんセンター名誉院長の高嶋成光先生から、がん医療の基礎知識についての講義を聞き、必要最小限の医学的知識を学んだ。
- ・四国がんセンター患者・家族総合支援室の関木裕美さんから、医療機関での相談支援の仕組みと、専門職とピアサポートの連携、県内のサロンの現状などについて学んだ。
- ・ピアサポーターが身に付けておくべき「聴かせていただく」ために必要な態度について学び、グループワークをする中で「聴く」ことの難しさと重要性に気付いてもらった。

### 二日目（9月4日）

- ・活動実績のある 3 人のピアサポーターから、具体的な取り組みや思いなどを語ってもらった。
- ・ピアサポーターとして最も重要な「聴かせていただく」態度について、全員がロールプレイを行い、その後ビデオ撮影。客観的に自らの姿勢や発言を確認することで、課題と改善点を認識した。

### 全体を通して

- ・全員が熱心に受講し、全てのプログラムを修了できた。
- ・12人の受講者のうち11人が、今後の活動を希望している。早い時期にフォローアップ研修を実施し、愛媛県のピアサポート事業の充実に確実につなげていきたい。
- ・参加者のうち5人が東予地方在住で、近隣での活動を希望している。医療機関などと連携し、これまで手薄だった東予地方でのピアサポート活動につなげていきたい。
- ・参加者の中に町なかサロンを利用した経験のある人が数人含まれ、ピアサポートが支えになったと語ってくださり、院外常設サロンの意義を強く感じた。一層のピアサポーターの質の向上のためにも研修事業継続の必要性を痛感した。



## 2016年度 ピアサポーター研修 プログラム

【1日目】 9月3日（土） 9:30~16:30 \*コムズ3階 会議室2

時間		内容	担当講師
9:30~10:30	60分	オリエンテーション ピアサポートとは何か？	おれんじの会 松本陽子
10:30~10:40	10分	休憩	
10:40~11:40	60分	がん治療の基礎知識	四国がんセンター 名誉院長 高嶋成光先生
11:40~12:40	60分	昼食休憩	
12:40~13:30	50分	サロンの運営	おれんじの会 松本陽子
13:30~13:40	10分	休憩	
13:40~14:40	60分	ピアサポートと専門職との連携	四国がんセンター 患者・家族総合支援センター 関木裕美さん
14:40~14:50	10分	休憩	
14:50~16:10	80分	ピアサポーターに求められる 基本的スキル Part1	おれんじの会 宮内美奈子
16:10~16:30	20分	まとめ	おれんじの会 松本陽子

【2日目】9月4日(日) 9:30~16:30 \*コムズ4階 創作室

9:30~10:20	50分	ピアサポートの現状 体験発表 ①町なかサロン ②病院サロン	おれんじの会 ピアサポーター 藤川さん・中野さん 高内さん
10:20~10:30	10分	休憩	
10:30~11:50	80分	ピアサポートに求められる 基本的スキル Part 2	おれんじの会 宮内美奈子
11:50~12:50	60分	昼食休憩	
12:50~15:30	160分	ピアサポートに求められる 基本的スキル Part 3 *途中休憩有り ・ピアサポーター実習 (VTR収録・自己確認)	おれんじの会 宮内美奈子
15:30~15:40	10分	休憩	
15:40~16:20	40分	“何でも質問”タイム ・質疑応答	おれんじの会 松本陽子 宮内美奈子
16:20~16:30	10分	まとめ	おれんじの会 松本陽子

あなたのがん体験を仲間のために役立てませんか？

# ピアサポート研修

## 受講者募集

「ピアサポート」とは、がんという病気を体験した人やその家族が、  
「体験を共有し、ともに考えること」で、同じ立場の方（「ピア」＝「仲間」）を支援することをいいます。  
主な活動の場としては、県内の病院や松山市中心部で開かれているサロン（語り合いの場）などです。  
今回は、これらの活動に関心のある方を対象とした研修です。



- 日時／2017年9月16日(土)・17日(日)  
両日ともに 9:30～16:30  
(2日間すべてのプログラムを受講できる方)
- 会場／コムズ 会議室2 (3階)  
(松山市三番町6丁目4-20)
- 対象／がん体験者  
(がんと診断されたことのある人、その家族など)
- 内容／1. ピアサポートとは何か？  
2. より良いコミュニケーションのために  
3. 知っておきたい基礎知識  
4. ロールプレイ(実習) など

■申し込み方法／FAXまたは電話でお申し込みください。

■FAXの場合、裏面に必要事項を記入して送信してください。

■お電話の場合、お名前、ご連絡先、お立場（患者、家族など）をお知らせください。

申し込み締め切り：2017年9月8日(金)

■FAX・電話ともに(電話は平日10時～16時のみ受け付け)

089-997-7638 「がんと向き合う人のための 町なかサロン」



## 金沢でのサロン見学報告 (2016年11月16日～17日)

### 小松市民病院

#### 【概要】

- ・石川県地域がん診療連携拠点病院
- ・2015年1月～ 院内に常設サロン「kataro-sa」開設  
平日9時～17時、週1回ピアサポーターが対応
- ・2016年4月～ 看護師（がん性疼痛看護認定看護師）を新たに雇用しサロンに常駐  
ピアサポーターは1人（女性 乳がん経験者 遺族）週2回



#### 【活動の工夫】

- ・看護師は別の医療機関で緩和ケア病棟看護師長を務めたこともあるベテラン。  
着任後、院内の職員へサロン周知の働きかけ
- ・サロン参加者に意見を出してもらいホワイトボードに書いたものを、そのまま職員会議へ。  
※「サロンが大事な場所であることを職員にわかってもらいたい」という声が多数
- ・医療者向け研修会などに出向き、サロンの存在を周知
- ・サロンのブログ

#### 【現状】

- ・個別相談の人、おしゃべりに来る人などが入れ替わり出入り
- ・自由な雰囲気（決まり事の説明などはなし）
- ・常駐看護師による迅速な対応も魅力の一つになっている
- ・ピアサポーターはさりげない対応



## 石川県がん安心生活サポートハウス つどい場はなうめ

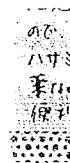
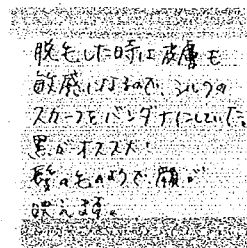
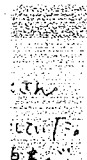
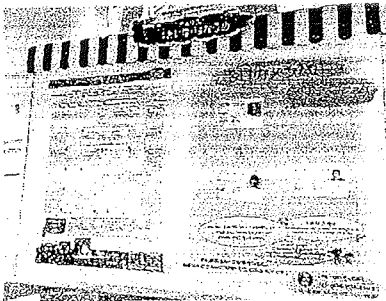
### 【概要】

- ・石川県が済生会金沢病院に委託し開設した、院外の常設サロン
- ・県社会福祉会館内に設置（松山で言えば県民文化会館あたり？ バス停の前）
- ・月曜～金曜と第1・3土曜 9時～16時
- ・看護師と事務スタッフが常駐
- ・ピアサポーターは、ほぼ毎日入れ替わりで対応



### 【活動の工夫】

- ・多様なイベント（ヨガ、アロマ、若年対象、男性対象、手芸部など）
- ・食べ物の提供
- ・県内拠点病院の地域連携室への周知
- ・自由な雰囲気（約束事は机上に置いてあるのみ、問題があれば看護師が介入）



がんに関する相談窓口を  
知っていますか？

『がん相談支援センター』

ひとりで悩まず  
相談してね

話をきいて  
ほしい

治療は  
どこで受け  
られるの？

治療費や  
生活費の  
心配

治療と仕事  
の両立は？

セカンド  
オピニオン  
とは？



愛媛県  
イメージアップキャラクター  
みきやん

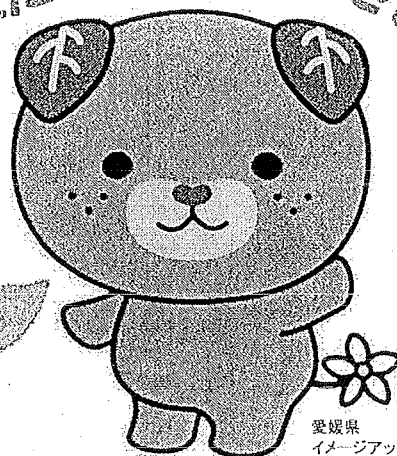
● 相談料は無料です

● 秘密は厳守します 匿名での相談も可能です

● 看護師やソーシャルワーカーなどがご相談をお受けします

# がん相談 支援センターは ここにあります！

どなたでもご利用できます



愛媛県  
イメージアップキャラクター  
みきゃん

❖ 記載している病院にかかっているなくても相談可能です ❖

中予	四国がんセンター	がん相談支援センター	(直通)089-999-1114
	愛媛県立中央病院	地域医療連携室 がん相談支援センター	(直通)089-987-6270
	松山赤十字病院	がん相談支援センター	(直通)089-926-9516
	愛媛大学医学部附属病院	総合診療サポートセンター	(直通)089-960-5918 089-960-5261
	松山市民病院	地域医療連携室	(直通)089-913-0081
	済生会松山病院	地域連携室 (がん相談支援センター)	(代表)089-951-6111
東予	住友別子病院	医療相談支援センター	(直通)0897-37-7133
	済生会今治病院	総合医療支援室 (がん相談支援センター)	(直通)0898-47-6048
	済生会西条病院	社会福祉課	(直通)0897-55-5392
	四国中央病院	患者相談支援室	(直通)0896-58-2118
	HITO病院	がん相談支援センター	(直通)0896-29-5320
	愛媛労災病院	がん相談(ソーシャルワーカー)	(代表)0897-33-6191
南予	十全総合病院	医療福祉相談支援センター	(代表)0897-33-1818
	市立宇和島病院	がん相談支援センター	(代表)0895-25-1111
	市立八幡浜総合病院	地域医療連携室	(直通)0894-24-2568

平成28年度 がん診療連携拠点病院におけるがん相談支援事業等の実施状況

(平成28年度がん診療連携拠点病院機能強化事業)

	四国 がんセンター	住友別子 病院	済生会 今治病院	県立 中央病院	愛媛大学医学 部附属病院	松山 赤十字病院	市立 宇和島病院	合計
がん相談支援事業								
相談件数(件)	9,502	610	1,928	4,075	1,337	1,200	2,078	20,730
電話	8025	371	433	1,601	139	521	354	11,444
面談	1477	239	1,495	2,474	1,197	665	1,641	9,188
その他	0	0	0	0	1	14	83	98
セカンドオピニオン 医師の紹介	341	15	21	56	23	53	39	548
普及啓発・ 情報発信事業	病院ホームページやパンフレットによる広報、一般向け講演会の開催等	定期発行リーフレットによる情報提供、市民公開行事(講演会、相談会)等	市民公開講座の開催、患者サロンに小冊子を設置	市民公開講座の開催、がん情報センター作成冊子の配布、がん関連図書により、患者家族へ情報提供	市民公開講座の開催、患者サロン啓発コンサート、学術講演会、相談支援センターの広報活動等	患者説明用ウェブの購入、がん診療情報誌の制作、市民公開講座の開催、HIPでの情報提供等	関連図書、リーフレットの設置、サロンの取り組みの紹介等	
がん患者の就労に関する総合支援事業	社会保険労務士による就労支援事業(週1回)、社会保険労務士との連携による支援事業等	—	社会保険労務士・患者団体と連携し相談体制を整備、職員及び地域の関連施設向けに研修会を開催	—	社会保険労務士の無料相談(週1回)との連携、患者会主催の就労相談の周知、キャリアコンサルタントによる院内勉強会等	キャリアコンサルタントとの協働による相談支援の実施	毎月第4木曜日に相談会を開催	

愛媛県がん相談支援推進協議会 (2017.9.5)

小児がん関連資料

【報告】

1) がんの子どもを守る会愛媛支部が主催した野外定例親睦会について

2017年6月4日(日)いのうえ小児科の駐車場に約130名〔小児がん患児・経験者27名、他疾病患児1名、きょうだい14名、親ほか51名(支部幹事やNPO法人ラ・ファミリエからのボランティア1名を含む)、小児科医14名、看護師5名、医療関係者家族14名〕が集まり、BBQを囲んで親睦を深めた。

テント/テーブルセットの一部は地元区長の協力を得て借用し、近隣のクリニックや調剤薬局からは差し入れや駐車場の提供を受けて実現した親睦会であり、子どもを亡くした親がサプライズで準備したバルーンアートのアトラクションが、大好評を博した。

愛媛大学の石井教授からは、今年11月に松山で開催される日本小児血液・がん学会のチャリティーコンサートへ患児・家族が招待され、愛媛支部の幹事からは同学会における「小児がんの子どもたちの絵画展」への出品を呼び掛け、当日の受付ボランティアの協力を依頼した。また守る会本部が作成したリーフレット「困っている事はありませんか」、ガイドライン「小児がんの子どものかょうだいたち」などを配布した。

後日、愛媛県立中央病院の堀川看護長から、「病院での子ども・家族の顔とは違い、何か自信に満ち溢れ、一段と大きく成長した姿を見ることができました。私も、この子たちやご家族に関わらせて頂いたことに感謝の気持ちでいっぱいになりました。子どもって、素晴らしく、素敵です!!」というメールが届き、『日本小児がん研究グループ』JCCGのロゴコンセプトの実現が遠い未来ではないことを予感させた。



(JCCG Press  
Vol.1より抜粋)

2) 日本小児血液・がん学会学術集会 (11月9日～11日) の関連イベントについて

がんの子どもを守る会が関わる入場無料のプログラムは以下の通りである。

そのうち、「小児がんの子どもたちの絵画展」では、学会開催地の守る会支部が中心となって受け業務を引き受けることが恒例となっており、愛媛支部の幹事を始めBBQの参加家族、並びにNPO法人ラ・ファミリエの協力によりボランティア体制が整いつつある。

【小児がんの子どもたちの絵画展】

○日時：2017年11月9日(木)～11月11日(土) 9:00～18:00 ○場所：ひめぎんホール

【3団体 合同公開シンポジウム】

『AYA世代(思春期・若年成人)がん患者』

○日時：2017年11月11日(土) 10:00～11:30 ○場所：ひめぎんホール

【3団体 合同公開ワークショップ】

『小児がんおよびAYA世代の現状と展望 —長期フォローアップ体制整備事業の開始を受けて—』

○日時：2017年11月11日(土) 10:00～11:30 ○場所：ひめぎんホール

【講演会(公開)】○演者：アグネスチャン「みんな地球の生きるひと～子どもの未来を考える～」

○日時：2017年11月11日(土) 15:20～11:30 ○場所：ひめぎん1階 大ホール

2017年7月24日

愛媛県知事  
中村時広 殿

小児・AYA世代のがん対策への積極的取り組みについて (要望)

公益財団法人がんの子どもを守る会  
理事長 山下 公輔

謹啓 盛夏の候、ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当会は、1968年に設立された小児がん患者家族会であり、設立以来、医療関係者はじめ多くの方のご支援を受けながら、小児がんに関連する様々な事業を行ってきております。

今般、第3期となる国のがん対策推進基本計画が策定されるに当たり、「小児がん」については前期より引き続き、小児がん拠点病院を中心として前向きな取り組みが継続されることは、患児・家族にとって大変喜ばしいことであり、今後の小児がん医療環境が本計画の実行により更に改善されることについて、期待を寄せております。

現在、貴県においても次期がん対策計画の見直しを図られていることと存じますが、小児がんの患児・家族が治療中、または治療後に抱えるいくつかの課題の解決に向けて、貴県においても対策をご検討いただきたく、小児がん親の会として以下の通り要望をさせていただきますので、よろしくご配慮のほどお願い申し上げます。

謹白

記

#### 要望事項

1. 貴県での小児がん対策を講じるにあたり、小児がん患児・家族からの聞き取りを行い、患児・家族の生の声を施策に取り入れていただきたい(継続)。
2. 小児・AYA世代のがん患者の医療の充足を図っていただきたい。
3. 小児・AYA世代のがん患者の社会生活の充足を図っていただきたい。

以上



以下、前項の要望について説明をいたします。

1、貴県での小児がん対策を講じるにあたり、小児がん家族からの聞き取りを行い、患者家族の生の声を施策に取り入れていただきたい（継続）。

・がん対策基本法においてがん対策推進協議会の委員は「がん患者及びその家族又は遺族を代表する者、がん医療に従事する者並びに学識経験のある者」から任命され、国のがん対策推進協議会においては小児がんの家族、医療者も委員として発言の機会が与えられている。しかしながら、都道府県のがん対策を講じる機関の構成をみると必ずしも小児がんの家族・医療者などの関係者がいないことから、貴県において次期がん対策を講じる際には、その構成員として小児がんの家族を加えていただきたい。

2、小児・AYA世代のがん患者の医療の充足を図っていただきたい。

2-1 小児がん拠点病院と連携病院の連携

・前期のがん対策推進基本計画に基づき指定された小児がん拠点病院においては、国の一定の予算が投じられたことで、医療環境も従来に比べると改善されてきている。次期計画には小児がん拠点病院のみならず、地域の連携病院の診療体制の充実や在宅医療を実施できるような診療体制の構築を謳っていることから、貴県においても小児がんを診療する連携病院に対して独自の予算を確保するなど、医療環境の充実を推進していただきたい。

参考：小児がん対策に関する要望書（平成 28 年 8 月提出）

2-2 地域の小児科と小児がん拠点病院との連携

・小児がんは成人がんと比較して急速に進行する疾患が多いのが特徴としてあげられる。そのため、発症の初期段階において、患児を診察する地域の小児科などが拠点病院もしくは小児がんを診療する連携病院に速やかに紹介し、適切な医療が行われる事が重要になっている。そのため地域の小児科での小児がんの早期発見と専門機関の連携がスムーズにいくための対策を行っていただきたい。

参考：東京都小児がん診断ハンドブック

2-3 県外で治療する患児・家族への経済的負担の軽減

・小児がんに関しては、小児がん拠点病院が全国 15 か所に指定されていることからわかるように、難治例を中心に集約化が進んでいる。従って、患児・家族の中には地元を離れ、東京や大阪を中心とする大都市圏に位置する小児がん拠点病院に入院することがあり、それに伴う滞在費、交通費などの費用は家計に重くのしかかる。これに対応するため、既にいくつかの自治体においては独自の助成を行っているところもあり、貴県においても県外で治療する患児・家族への経済的負担の軽減を実現していただきたい。

2-4 AYA 世代のがん患者の実態把握

・AYA 世代のがん患者については次期計画にも盛り込まれ、緩やかな集約化が進むことが期待されている。貴県においても県内における AYA 世代のがん患者の診療実績やその受け皿となる病院の診療体制などの実態把握に努めていただきたい。



## 2-5 長期フォローアップへの対応

・小児がんは治療が終わった後も晩期合併症や2次がんの発症などへの対応のため、定期的に医療機関を受診する必要がある。しかしながら、就労の状況や経済的な事情などの様々な理由により、医療機関を受診出来ていない患者もいる。特にフォローアップのための費用は小児慢性特定疾患による医療費助成が切れていることがあり、全て3割負担となる。この経済的負担の増加は医療機関への受診をためらう要因ともなり、本来早期に対処しなければならない症状を見逃すことにつながる。このような状況改善のため、医療費を一部助成するなどして受診を促す試みを検討していただきたい。また、晩期合併症や2次がんを発症し、治療を行っている患者が、介護保険や障害者自立支援法などの利用によってその負担が軽減することもあることから、既存の制度の適用範囲を広げるなどの柔軟な運用を検討していただきたい。

## 3、小児・AYA世代のがん患者の社会生活の充足を図っていただきたい。

### 3-1 小児がん患児・家族に対しての情報提供の充実

・当会や研究者による患児・家族に対するアンケートから、治療中若しくは治療後において患児・家族は治療に関する様々な悩みや不安を抱えていることが多く、情報の少なさから孤立してしまうことがあることが明らかになっている。小児がん患児・家族に対して、当会をはじめとする患者家族会や患児・家族が相談できる機関、支援団体の情報提供を、医療機関や小児慢性特定疾病の医療費助成の申請先である保健所などで積極的に行っていただきたい。

### 3-2 小児がんを含んだがん教育の充実

・平成29年度より全国的に「がん教育」が展開されることになるが、その内容は成人がんの予防や検診といった健康教育が中心となっている実態がうかがえる。文部科学省の「学校におけるがん教育の在り方について（平成27年3月）」の報告では、配慮が必要な事項として小児がん患児が当事者として授業を受けることがあるとされている。小児がんは成人がんとは異なり発症の原因が不明であることから、成人がんの様に予防や検診が難しいことを踏まえたがん教育が行われることと共に、小児がんに詳しい外部講師を招聘するなどし、小児がんに関する知識と理解が深まるように配慮していただきたい。

・上述のように小児がん患児当事者やきょうだい児が学校に在籍することが想定されるため、がん教育を行う教員のみならず、その他の学校職員に対しても、小児がん経験者の復学や治療中の患児の通学等に対する理解を深めるための定期的な研修を行っていただきたい。

### 3-3 治療中の患児が保育・教育を受ける機会の確保

・治療中の患児が十分な教育が受けられることは、患児自身のその後の自立と社会参加に大きく影響する。現在、義務教育期間中の公立学校においても、院内学級への転学の手続きが必要であり、学習の継続に困難を生じている場合がある。病気療養中の患児が入院中においても継続的に教育を受けられるための手続きの簡素化、私学や高校など転校に制約がある患児に対する配慮、復学時に普通学級を希望する際の配慮などをしていただきたい。

・未就学児に関しても発達年齢に応じた保育が行われる必要がある。病院内において遊びやコミュニケーションの機会を提供する、専門的な知識を持つ保育士の設置の拡充を図っていただきたい。

### 3-4 小児・AYA世代のがん患者の新規就労及び就労定着支援の充実

・小児がん患者は乳幼児期から学齢期にかけて発症することから、長期にわたる入院治療や通院治療を受けた後に就労期を迎えることになる。そのため本来得られたであろう学力や社会的経験を十分に得ることができない場合も考えられる。従って、既に社会的な経験を十分に積んだ後に治療を行った成人のがん患者の就労支援とは異なることを認識したうえで、ハローワークや小児慢性等自立支援事業などの他制度を活用しながら、小児がん患者への就労支援を進めていただきたい。

2016年8月31日

厚生労働大臣 塩崎 恭久 殿  
厚生労働省健康局長 福島 靖正 殿

### 小児がん対策に関する要望書

公益財団法人 がんの子どもを守る会  
理事長 山下 公輔  
(小児がん患者家族会一同)

一般社団法人 日本小児血液・がん学会  
理事長 檜山 英

特定非営利活動法人 日本小児がん看護学会  
理事長 内田 雅也

小児がんの診療体制は、2012年の第二期がん対策推進基本計画において小児がんが重点的に取り組むべき課題として取り上げられたことを受けて、小児がん拠点病院、中央機関等が指定され、これらの機能を中核とした体制が整い、診療ネットワークの整備が急速に進んで参りました。小児がん拠点病院、中央機関の設置は拠点病院の医療体制の整備のみならず、地域で小児がんの治療を行う診療病院と連携を図ることにより、日本の小児がん医療全体の底上げに一定の効果を上げてきてはおりますが、未だ十分とは言い難く引き続き小児がん患児・家族が安心して治療を受けられるような、効果的な医療システムが構築されることを期待するものです。

小児がんは小児期に発生する悪性腫瘍であり、かつ発症数が少ないことから他の成人がんには見られない特有の問題を抱えております。病気を治療・克服することだけでなく、治療中または治療後における教育、自立・就労などの課題や、晩期合併症、二次がん等のリスクも存在します。

がんの子どもを守る会では、2017年度に予定されているがん対策推進基本計画の第三期改訂にあたり、一般社団法人日本小児血液・がん学会、及び特定非営利活動法人日本小児がん看護学会と協議のうえ、全国の小児がん患者家族会の協力の下、患児・家族、支援者及び医師・看護師に向けて小児がん対策に関するアンケートを行いました。アンケート結果からは、第二期の取り組み状況が未だ十分には伝わっていないこと、取り組みに対して評価が難しいこと等が明らかになっています。このような状況を踏まえ、患児・家族及び医師・看護師の意見として、第三期のがん対策推進基本計画には是非以下の点を反映していただきたく、要望としてまとめましたので、ご高覧の程宜しくお願い申し上げます。

### 【分野別施策と目標】

5年以内に、小児がん拠点病院を中心とした各地域の小児がん診療レベルの更なる向上及び連携体制の整備を図る。

### 【取り組むべき施策】

1. 小児がん拠点病院を中心とした質の高いがん医療の提供と研究開発の推進（集約化の推進）
2. 小児がん拠点病院と地域の診療病院との連携の更なる推進（均てん化の推進）
3. 専門教育を受けた医師・看護師及び種々の医療福祉関係者の小児がん拠点病院及び診療病院への配置
4. 小児がん登録を基にした小児がん経験者の追跡調査や、長期フォローアップ体制の充実
5. 発症から始まる長期的な支援の強化（医療・生活両側面からの社会資源の充足）
6. 小児がん対策の取り組みについての更なる情報発信

以下、前項の要望について説明をいたします。

### 【分野別施策と目標】

5年以内に、小児がん拠点病院を中心とした各地域の小児がん診療レベルの更なる向上及び連携体制の整備を図る。

- ・小児がん患者とその家族が住んでいる地域（特に二次医療圏の中）で、一定レベルまでの小児がんの適切な診療を安心して受けられるような環境の整備。
- ・小児がん経験者が安心して社会生活を送れるような療養・社会環境の整備。

### 【取り組むべき施策】

1. 小児がん拠点病院を中心とした質の高いがん医療の提供と研究開発の推進（集約化の推進）（アンケート1より）
  - ・小児がんの治療研究には多くの患者・家族や医療者が期待を寄せています。小児がん治療と共に、初診時から治療終了後の事（晚期合併症や長期フォローアップ）まで見越した治療計画が確立されるように求めます。
  - ・小児がんにおけるゲノム医療研究の進展に伴い、遺伝性腫瘍や小児特有の問題も含めてゲノム医療の導入が可能になるような実臨床の医療体制の構築を求めます。
  - ・特に希少・難治の疾病については「集約化」が“見える化”されるよう小児がん拠点病院を中心とした医療体制の整備及び施設情報の公開を求めます。

## 2. 小児がん拠点病院と地域の診療病院との連携の更なる推進（均てん化の推進）

（アンケート2、3、4より）

- ・小児がん拠点病院が指定されたことによって、診療実績は緩やかに集約されつつあり、拠点病院の施設や環境が改善されたこと、相談先が明確になったことなどが評価されています。一方で、拠点病院に指定されていない診療病院では連携ができたという良い評価があったものの、悪くなったと評価したコメントとして、病院間の格差が広がったことによる、患児・家族の不安や医療者のモチベーションの低下など、集約化によるデメリットも指摘されました。拠点病院ネットワークの設立の目的である「均てん化」を実現するための施策として、拠点病院と連携する診療病院の“見える化”とともに、症例登録数や拠点病院への照会症例数などの診療情報の公開を求めます。
- ・地域の医療体制を考慮しつつも、拠点病院には難治例を集約し、診療病院には白血病など治療方法が確立されている疾患を集めるなど、役割の更なる明確化を求めます。

## 3. 専門教育を受けた医師・看護師及び種々の医療福祉関係者の小児がん拠点病院及び診療病院への配置（アンケート1より）

- ・充実した小児がん医療を行うためには人的資源の確保が不可欠です。拠点病院の指定により専門職の配置が拡充されつつあるものの、いまだ十分とはいえません。医師数、ベッド数などは変わらず、集約化により患者が増えたことによって、医師やスタッフが疲弊しているとの声が数多くみられました。小児がん医療を行う診療病院を含めすべての施設に対して、専門性をもつ人材の配置を求めます。
- ・小児がん拠点病院及び診療病院には専門教育を受けた小児がん専門医、小児外科、脳外科、整形外科や長期フォローを専門とする医師、小児がんの専門性をもつ看護師、さらにソーシャルワーカー、チャイルドライフスペシャリスト、ホスピタルプレイスペシャリスト、子ども療養支援士、保育士、ボランティアコーディネーターなどのコメディカルスタッフが適正に配置されることを求めます。

4. 小児がん登録を基にした小児がん経験者の追跡調査や、長期フォローアップ体制の充実。(アンケート1より)

- ・アンケートからも、多くの患児・家族や医療者が長期フォローアップの充実を求めていることがわかっています。全国がん登録が法整備化されたことによって、これまで正確に把握することができなかった罹患者をはじめとする小児がん治療に関するデータが揃うこととなります。集められたデータが長期フォローアップも視野に入れたシステムづくりに繋がることを求めます。
- ・現状においては晩期合併症、二次がんなどのリスクが指摘されているにも拘らず、進学や就労などによる転居、経済的な理由等によりフォローアップを放棄したという事例が少なくありません。小児慢性特定疾病の医療費助成制度のような経済的な支援を確立することが、フォローアップを継続し、晩期合併症への適切な対応や再発、2次がんの早期発見に繋がります。
- ・長期フォローアップでは複数の科にまたがって受診することが少なくなく、患者のフォローアップの状況を横断的に把握するような医療連携も求められます。
- ・患児・家族及び医療者関係者に対する、長期フォローアップへの意識の醸成を目的とした教育や研修の実施を求めます。

5. 発症から始まる長期的な支援の強化(医療・生活両側面からの社会資源の充足)  
(アンケート1より)

【教育・保育】

- ・小児がんの特徴として、未就学年齢から発病し、就学年齢を治療と共に過ごすことが挙げられます。小中学生は入院中には院内(訪問)学級などを利用する等して教育を継続して受けることができる体制は整いつつありますが、院内(訪問)学級のない高校生や、通院治療中に地元校に通学できないことなどにより、教育を受けることが難しい子どももいます。自治体の中には、こうした課題について独自に取り組んでいる所もありますが、未だ一部に限られており、入院中の患児全てに教育の保証がされてはおりません。こうした事実から、入院中から退院後も含め、発達年齢に応じた保育・教育環境の整備を行い、患児の遊びや学びを保障することが求められます。

【就労】

- ・十分な教育を受ける機会を持ってない小児がん経験者にとっては、自立就労は更なる障壁となっております。長期フォローアップや治療の継続により通院があることを考慮すると、難病患者のような就労に関する助成金や、障害者雇用枠に類似した社会的な支援を求めます。

【AYA、移行期医療】

- ・AYA(思春期・若年成人)世代の患者に関して専門的な治療を受けることのできる施設の整備や、教育や就労などを含む相談体制が整備されることを求めます。

- ・移行期の医療に関して、患児が適切な医療を受けることが出来るように、小児科と成人診療科との連携が促進されることを求めます。

#### 【家族支援】

- ・小児がんの治療において、患児を支える家族は大きな役割を果たしており、その家族やきょうだいを支える取り組みはとても重要になります。拠点病院や診療病院の中で家族への相談支援体制の充実やピアサポート活動（グリーフケアも含む）への支援を求めます。

#### 6. 小児がんや小児がん対策の取り組みについての更なる情報発信

- ・小児がん診療体制の整備について、これまで様々な取り組みが行われてきましたが、拠点病院からの情報が患児・家族や連携する診療病院にまで十分に届いていないことから、患児・家族から取り組みが理解されていないとのコメントが寄せられています。拠点病院を中心とした「集約化」と「均てん化」を確実に進めるためには、患児・家族、連携する診療病院の小児がん医療体制に関する理解を深めることが不可欠です。拠点病院の役割の一つとして患児・家族、連携する診療病院に対して、医療情報や拠点病院の取り組みについて周知させることを求めます。
- ・地域の小児科医等が小児がんを疑った場合に際して、速やかに拠点病院や連携する診療病院への紹介が可能になるような、情報提供・啓発活動を進めることを求めます。
- ・小児がんに対する理解が社会の中で進むような施策の一つとして、がん教育を通じて児童・生徒及び教育関係者が、小児がんに関する知識・理解を深める機会を設けること求めます。

## 要望団体一覧

一般社団法人 日本小児血液・がん学会

特定非営利活動法人 日本小児がん看護学会

<小児がん親の会・経験者の会>

えがお（群馬県立小児医療センター親の会）

ひまわりの会（獨協医科大学病院とちぎ子ども医療センター 患者家族会）

菜の花の会（東京都立小児総合医療センター親の会）

リンクス（聖路加国際病院小児病棟親の会）

COSMOS（国立がん研究センター中央病院 小児科親の会）

特定非営利活動法人ミルフィーユ小児がんフロンティアーズ（千葉県内病院親の会）

にじいろ電車（東京女子医大病院 脳神経外科 家族の会）

えくぼ（順天堂医院小児科親の会）

げんきの会（日本大学板橋病院小児科親の会）

ほほえみの会（静岡県立こども病院血液腫瘍科親の会）

ハッピーウイング（富山県小児がん経験者と家族の会）

わたぼうしの会（岐阜大学病院親の会）

父母の会「ひだまり」（三重大学小児科）

WISH（東海地域小児がん経験者の会）

きょうとたんぼぼの会（京都大学附属病院小児科親の会）

miracle B r a i n（近畿小児脳腫瘍経験者・家族の会）

かがやく未来（京都府立医大附属病院親の会）

特定非営利活動法人エスビューロー（全国/大阪市立総合医療センター患者家族会）

さくらんぼの会（兵庫県立こども病院血液腫瘍内科親の会）

つながりの会（小児がん経験者の会）

四つ葉のクローバー（小児がん経験者の会）

みらい（福岡大学病院小児科親の会）

大きな木（九州がんセンター小児科親の会）

木曜会（久留米大学病院小児科親の会）

NPO 法人にこスマ九州（小児がん経験者の会）

神経芽腫の会（全国）

網膜芽細胞腫の子どもをもつ家族の会すくすく（全国）

Fellow Tomorrow（全国 小児がん経験者の会）

シェイクハンズ！（全国小児がん経験者の会）

公益財団法人がんの子どもを守る会

北海道支部/宮城支部/福島支部/長野支部/新潟支部/福井支部/富山支部/関東支部/静岡支部/  
東海支部/関西支部/岡山支部/広島支部/香川支部/愛媛支部/高知支部/九州北支部/九州西支  
部/熊本支部/宮崎支部/沖縄支部



東京都小児がん診療連携協議会編

# 小児がん診断 ハンドブック

改訂第二版



東京都

事務連絡  
平成29年6月15日

各道府県衛生主管部(局)  
がん対策推進課 御中

厚生労働省健康局  
がん・疾病対策課

小児がん診断ハンドブック(東京都作成)の周知について

がん対策の推進につきましては、日頃より御協力を賜り感謝申し上げます。

厚生労働省は、がん対策推進基本計画(平成24年6月閣議決定)等を踏まえ、小児がん対策に取り組んでいるところでありますが、小児がんは発症数が少なく、発症から診断まで時間を要することが課題であると指摘されております。

こうした中、東京都においては、東京都小児がん診療連携協議会が中心となり、小児がんを発症した患者の方が地域の小児科などを受診した際に、小児がん拠点病院等に速やかに紹介され、適切な医療を受けられることができるよう、一般小児科医に向けて「小児がん診断ハンドブック」を作成しております。

○(http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/iryo\_hoken/gan\_portal/research/taisaku/shoni\_taisaku/shounigann\_shindann\_handbook.html)  
各道府県におかれましては、本件についてご了知の上、一般小児科医の診断の一助となるよう、当該ハンドブックの内容を貴管内の小児診療に関わる医療機関等に対して周知されるよう、対応の程よろしくお願いいたします。

なお、当該ハンドブックに記載している医療機関は東京都内に限られていますので、周知の際には貴管内の小児がん診療を行う医療機関や、全国に15か所指定されている小児がん拠点病院

(http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000155766.pdf)をお知らせいただくなど、各道府県の実情に応じ対応していただければ幸いです。この際、東京都にご相談・ご申請いただければ、内容の変更(貴道府県内の病院を掲載する等)が可能、とのことですので、ご承知おきください。

なお、周知の実施については、日本医師会、日本小児科医会、日本小児科学会にも連絡しておりますので、申し添えます。  
当該ハンドブックを活用して、小児がん患者が適切な医療を受けられるよう、ご協力をお願いいたします。

【担当】  
厚生労働省 健康局 がん・疾病対策課 河田・丸野  
電話番号：03-5253-1111(内線2924、4605)

事務連絡  
平成29年7月7日

関係医療機関 御中

愛媛県保健福祉部健康衛生局  
健康増進課

小児がん診断ハンドブック(東京都作成)の案内について

梅雨の候、貴下ますます御清栄のこととお慶び申し上げます。

また、本県保健福祉行政の推進につきましては、日頃より格別の御理解と御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

この度、厚生労働省健康局がん・疾病対策課から、別添のとおり、東京都において標記ハンドブックが作成され、関係機関への周知依頼がありましたので、お知らせいたします。貴施設における小児がん診断等に御利用くださいますようお願い申し上げます。

【担当】

愛媛県保健福祉部健康衛生局  
健康増進課 健康政策係 中田  
〒790-8570  
愛媛県松山市一番町四丁目4番地2  
Tel: 089-912-2401 Fax: 089-912-2399  
E-mail: nakata-ichirou@pref.ehime.lg.jp